

<糖尿病内分泌内科>

【はじめに】

2年間の初期研修終了後、主に糖尿病専門医・内分泌代謝専門医を目指す医師の研修を行う。その前段階として幅広い内科臨床の知識を習得しておくことが重要であり、1年目は総合内科コースに準じて研修を行い、内科学会認定内科認定医を目指す。当科での後期研修期間においては3-5年目の3年間であるが、1年ごとの研修も可能である。つまり1-2年目を当院で行い、その後希望があれば他施設での継続研修も支援する。

【一般目標】 《GIO》

幅広い内科臨床の知識を備え、糖尿病、内分泌疾患の病態を深く理解し、適切に問題解決ができる能力を身につけ、またチーム医療のリーダーとして他科・他職種と円滑な連携、指導が行える医師となることを目標とする。

【具体的目標】 《SBO》

1. 糖尿病の病因・合併症の状態を的確に把握し、治療に生かすことができる。
2. 適切な食事療法・運動療法の指示が行える。
3. 各種経口糖尿病薬・各種インスリン製剤の特性を理解し、適切に使用できる。
4. 他職種と連携し、チーム医療を理解するとともに糖尿病教育を適切に行える。
5. 周術期の糖尿病コントロールなど他科との連携において適切な指示が行える。
6. 糖尿病昏睡、低血糖などの急性合併症の診断・治療が行える。
7. 各種内分泌疾患（甲状腺、下垂体、副腎疾患、骨粗鬆症など）の理解を深める。
8. 各種ホルモン負荷試験を実施し、結果の評価が行える。
9. 超音波検査、CT、MRIなど内分泌臓器の画像診断を評価できる。
10. 内分泌疾患の病態を理解し、適切な薬物療法が行える。
11. 甲状腺クリーゼ、高カルシウム血症など内分泌救急疾患を適切に診療を行える。

【方略】 《LS》

1. 病棟業務：

指導医とともに糖尿病、内分泌疾患患者を中心に担当する。特に1年目は内科疾患全般にわたって担当する。
2. 外来業務：

総合内科外来、糖尿病外来、救急外来を各1単位で担当する。
3. 検査：

指導医の下で甲状腺エコー・血管エコー検査、各種内分泌負荷試験を経験し、単独で行えるように研鑽を積む。
4. カンファレンス参加：

糖尿病チームカンファレンス、内分泌代謝カンファレンス・抄読会に参加し、最新の学術論文を理解し、診療活動に生かせるようにする。
5. 糖尿病教室の講師として入院・外来患者の教育を担当する。
6. 内科地方会、糖尿病学会、内分泌学会などにおいて症例報告、発表を行う。

【評価】《EV》

1. 日本内科学会認定内科医の資格を取得する。
2. 日本糖尿病学会、日本内分泌学会専門医の資格を取得する。
3. 関連学会での発表、学術誌での論文投稿などで評価を受ける。
4. 定期的な指導医との共同診療、他職種との連携で形成的評価を受ける。

『参考資料』

1. 週間スケジュール（2年目研修スケジュールの一例）

	月	火	水	木	金
早朝		抄読会			
午前	病棟	病棟	糖尿病外来	救急外来	病棟
午後	甲状腺エコー	病棟 カンファレンス	病棟	総合外来	症例 カンファレンス

2. 指導医・専門・学会資格等

- 高橋 哲也 内科部長 代謝内分泌（糖尿病内分泌内科指導責任者）
 [学会資格] 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・認定教育施設指導医
 日本糖尿病学会認定糖尿病専門医・指導医
 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医
 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医
- 田守 義和 内科部長 代謝内分泌
 [学会資格] 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・認定教育施設指導医
 日本糖尿病学会認定糖尿病専門医・指導医
 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医